北諸県地域の普及活動（普及活動月報）

令和７年１２月
北諸県農林振興局
（北諸県農業改良普及センター）

目次

Ⅰ　管内の農業・農村の主な動き
Ⅱ　主な普及指導活動等の取組
１　総合プロジェクトに関する普及活動
（１）北諸県地域を支える多様なアグリプレイヤーの確保・育成
（２）北諸県地域の持続可能な肉用牛産地づくり
（３）地域を牽引する集落営農法人の育成による収益性の高い北諸県農業の構築
（４）農地と水を活用した魅力ある大規模畑作経営体の育成
２　専門プロジェクトに関する普及活動
（１）高品質茶生産、コスト低減による茶業経営の安定化
（２）高い生産性を実現する施設きゅうり産地の育成
（３）生産者が描く未来ビジョンを達成できるいちご産地の育成
（４）産地ぐるみでブランド化に取り組むへべす産地の育成
Ⅲ　プロジェクト以外の普及活動（一般活動）

北諸県地域の普及活動（普及活動月報）

令和７年１２月
北諸県農林振興局
（北諸県農業改良普及センター）

Ⅰ　管内の農業・農村の主な動き

（１）農業経営指導士と県農政水産部幹部との意見交換会の開催

22 日、県電ホールにて県内の農業経営指導士と県農政水産部幹部との意見交換会が開催されました。

県全体で 16 名の農業経営指導士が参加し、管内からは２名が参加しました。意見交換会は「地域が抱える課題と解決に向けた取組」をテーマに各地域代表の農業経営指導士から様々な意見、要望が出され、活発な交換会となりました。

管内から参加した農業経営指導士からは「新規就農者育成」と「畜産経営」について地域の現状や課題、解決に向けた取組等を説明されました。

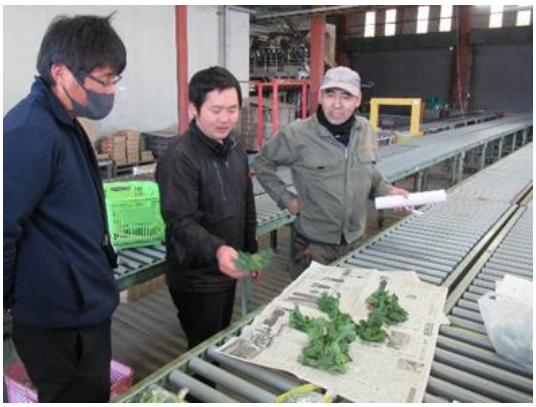
（意見交換会の様子）

（２）プチヴェール出荷目揃え会

15 日、JA みやざき都城地区本部の野菜集配センターにて、プチヴェールの出荷目揃え会が行われました。

今年は結球が遅れていますが品質自体は上々で、関東方面に出荷されています。包装前の生産物を持参している生産者もおり、JA の青果物検査員や販売担当から、付け根の切り落とし位置や外葉の要不要など助言がありました。生産者からは、より良い出荷調整方法を理解できたとの声が聞かれました。

（現物を見て出荷基準を確認）



（出荷調整の助言を行う JA 職員）

Ⅱ　主な普及指導活動等の取組

１　総合プロジェクトに関する普及活動

（１）北諸県地域を支える多様なアグリプレイヤーの確保・育成

１）就農相談を実施

就農を希望している７名　（露地野菜２名、露地野菜＋水稲１名、施設野菜１名、肉用牛繁殖１名、養鶏１名）の就農相談会を開催しました。うち４名については、就農計画の作成支援を行い、ほぼ計画の作成が終了し、今後認定新規就農者の認定に向けて手続きを進めていくことになります。

引き続き、地域の大切な担い手につながるよう支援していきます。

２）農業人材確保・定着支援部会（第２回）の開催

新規就農者確保に向け、３日、市町、ＪＡ、ＮＯＳＡＩ、県により、支援状況の共有や、中古ハウスや畜舎の情報収集、都城市が開設予定の新規就農に向けたＷｅｂサイト等について協議を行いました。

今後も、新規就農者等の農業人材の確保のため、各種支援施策について関係機関で協力して取り組んでいきます。

（２）北諸県地域の持続可能な肉用牛産地づくり

１）子牛セリ市場での営農相談窓口設置

16 日、子牛セリ市会場に、営農相談コーナーを設置しました。受付会場に訪れる生産者から、イタリアンライグラスの雑草防除について相談を受け助言を行いました。今後も、農業者の多く集まる子牛セリ市で営農相談活動を行っていきます。

（営農相談窓口設置）

２）関係機関（NOSAI）と連携した巡回指導

4、8、10､22､24 日、NOSAI みやざきの獣医師と連携し、重点対象農家３件の巡回指導を行いました。NOSAI 獣医師による超音波装置を用いたフレッシュチェック（分娩後の卵巣等の機能回復確認）や妊娠鑑定等を行い、普及センターからは、寒冷対策や子牛管理についての助言を行いました。今後も関係機関一体となって、生産性向上に向けた支援を行っていきます。

（３）地域を牽引する集落営農法人の育成による収益性の高い北諸県農業の構築

１）法人経営の基盤強化

管内の主要な集落営農法人の現在の経営状況について聞き取りを行うとともに経営ビジョン（案）の検討を行いました。また、令和７年産の気象と作柄を振り返り、温暖化に対応した栽培技術の検討が必要であることを再度認識してもらいました。

役員や従業員等の確保が難しくなってきている地区もあり、今後もＪＡとも相談しながら、営農や経営状況の改善に必要な支援を継続していきます。

（４）農地と水を活用した魅力ある大規模畑作経営体の育成

１）畑かん展示ほ設置

１ 日、大規模法人の大根ほ場において、自走式散水機を使用して播種後の散水試験を実施しました。昨年は乾燥による品質の低下がみられたため、生育中にも散水を行いながら、収量・品質への効果を検証します。

（自走式散水機での散水状況）

２）土地利用営農の振興に向けた研修会の開催

５日、管内の露地野菜法人及び集落営農法人を参集して、人材の確保・育成をテーマに研修会を開催しました。

研修会では熊本県にある「ネットワーク大津株式会社」の徳永社長を講師に招き、講演の後、参加者で意見交換を行いました。

今回出された課題や意見を参考に今後も支援を行っていきます。

（講師による講演）

（法人間の意見交換）

３）畑かん営農推進に向けた担当者会の開催

17 日に担当者会を開催し、散水器具の導入推進及び貸し出し状況等について情報共有しました。また、翌月から今後の推進方法についてグループワークを実施することとしました。今後も関係機関で協力しながら、畑かん営農の推進に取り組みます。

４）都城市サツマイモ基腐病協議会研修会の開催

８日、都城市サツマイモ基腐病協議会を対象にＲ７年産の基腐病、茎根腐細菌病の発生状況及び対策、基腐病抵抗性を有する新品種の紹介等について研修会を開催しました。Ｒ８年産では、優良な種芋確保に向けた対策や総合的防除の周知・啓発を通じて被害低減を目指します。

（説明する杉田技師）

２　専門プロジェクトに関する普及活動

（１）高品質茶生産、コスト低減による茶業経営の安定化

１）茶園品評会

２日、３日に都城茶振興会主催の茶園品評会が開催されました。本年度は成園の部、きらり 31 の部で各７件参加し、当時品種育成に携わられた吉留事務局長（茶業協会）に審査・講評をいただきました。

上位入賞者については、来年４月に開催予定の都城茶振興会総会において表彰される予定です。

（茶園品評会審査の様子）

２）都城茶試飲会

14 日、都城茶 PR 活動として北諸県地区茶業青年会と高城高校茶道部がコラボし、品種茶（シングルオリジン）の試飲会・販売会を道の駅 NIQLL で開催しました。

当日は 100 名余りの来場者に６品種の紹介文やポジションマップを用いて品種の特徴を説明し、気になった品種を急須で淹れて試飲していただいた他、高城高校茶道部による抹茶のお点前実演会も開催しました。

試飲会の感想では「飲み比べることで味の違いが分かり、面白かったです。」「淹れるお湯の温度帯で味わいが異なることに驚きました。」などの声が寄せられ、品種茶や急須で淹れることの魅力を伝えることができました。

（品種の特徴を説明する様子）

（試飲会の様子）

（2）高い生産性を実現する施設きゅうり産地の育成

1）施設園芸におけるデータ活用先進地事例調査

18 日及び 19 日に、JA 指導員とともに徳島県のきゅうり生産現場を訪問し、現地巡回指導への参加並びに関係者との意見交換を行いました。

現場では、側枝の配置間隔を広めに確保し、さらに下葉を確実に除去することで、植物体に十分な光があたるよう管理されていました。

また、徳島県では、篤農家の管理技術を見える化する取組が進められており、当地域の参考となる事例を確認することができました。

（植物体に十分に光が届いている）

2）令和７年度みやざきデータ駆動型農業実践研修会（第２回）が開催

25 日、環境制御研究会メンバー２戸のきゅうりほ場にて、栽培コンサルタントによる現地指導研修会（第２回）が行われました。

前回の指導を受け、葉かきやかん水量の見直し、根の観察などを実践しており、講師からは概ね良好な状態であるとの評価を受けました。一方で、現在の時期の日射量に対して着果数が多いとの指摘があり、摘果の必要性が示されました。

第 1 回と比べて、生産者から日頃の疑問や管理に関して積極的に質問があり、有意義な研修となりました。

（講師と根の張り具合を確認）

（12 月の助言を受け摘葉したほ場）

（3）生産者が描く未来ビジョンを達成できるいちご産地の育成

1）JA みやざき都城地区本部いちご専門部会三股支部　現地検討会の実施

11 日、三股支部生産者ほ場にて現地検討会が開催され、支部部会員や JA 担当者とともに巡回し、ハウス管理状況や生育状況を確認しました。2 番花の出蕾遅れによる収穫の谷を短くするため 1・2 番花のすそ果の摘果を行うとともに、重油使用を惜しまずしっかり加温することで着果期間が適正になるよう伝えました。

２名の新規加入部会員は、初めて自分自身で管理を行っていくことから、先輩部会員と株の生育状況を見ながら、朝夕のハウス開閉タイミング等を確認していました。

（現地検討会で生育を確認）

（高設栽培の生育状況）

（今後の管理説明）

（4）産地ぐるみでブランド化に取り組むへべす産地の育成

1）へべす剪定指導

23 日、令和 8 年度の営振協展示ほ（省力的な樹形と剪定方法の検討）設置を予定している園地の生産者に、通常の剪定方法の復習と設置方法の事前確認を行い、展示ほ試験内容への理解を深めました。

これまでの剪定講習会では、慣行の開心自然形で毎年剪定指導を行っていますが、将来的には部会員の高齢化や労力不足が危惧されることから、トリマー等を活用した省力的な樹形や剪定方法の検討も進めていく予定です。

（波越主査による剪定指導）

Ⅲ　プロジェクト以外の普及活動（一般活動）

（1）都城馬鈴薯生産部会栽培講習会の開催

15 日、部会員約 15 名が出席し、ＪＡ主催の栽培講習会が開催されました。普及センターからは栽培暦の説明と、採種用の秋ばれいしょ栽培について、実施している展示ほの結果等を共有しました。

１月から本格的な植付が始まりますので、出芽や生育状況を定期的に確認し、部会内で引き続き情報共有していきます。

（2）ミニトマト現地検討会を実施

19 日、ミニトマトの現地検討会が開催されました。

JA からは微生物資材、バイオスティミュラント資材の紹介、普及センターからはトマト黄化葉巻病及びタバココナジラミの発生注意報の情報提供と、タバココナジラミの増殖速度や気門封鎖剤の活用法、粘着板の適切な設置位置等の説明を行いました。

来月からは繁忙期であることも踏まえ、２ヶ月に１回ペースで複数園地を巡回することになりました。

（説明する奥野副主幹）

（3）JA みやざき都城地区本部マンゴー部会の巡回活動を実施

18 日、マンゴー部会員の圃場巡回及び生育状況確認を JA 担当者と行いました。

今年は 9～10 月が平年より気温が高く、花芽分化が遅れ、本来の早期出荷作型より 3 週間ほど出蕾開始時期が遅くなっています。

生育状況としては全体的に１割以上の出蕾が見られましたが、開花までは１ヶ月以上必要となる見込みです。ミツバチの貸出・購入が逼迫し、早めの申込が求められる中、導入時期の判断が難しくなっています。

（マンゴーの出蕾した状態）

（4）JA みやざき都城地区本部きんかん生産部会の果実分析を実施

25 日、きんかん部会員の年内のす上がり状況と、たまたま出荷基準の達成状況を確認するため、きんかん果実分析を行いました。

７年産の状況は、平年同時期比で果梗部の緑色の抜けが早く、す上がり程度は平年並み、カラーチャートはやや良く、酸度の低下がやや早い結果でした。

これらの結果を踏まえ、2 月中旬以降の１～３番果の過熟果・うるみ果の発生に十分注意するよう、部会員に呼びかけました。

（５）令和７年度鳥獣被害対策研修会の実施

15 日、都城市吉之元町の田野自治公民館で、国の事業で柵設置を計画している農業者に対し、研修を行いました。都城市の被害状況と交付金を活用する上での注意点、柵の設置や管理について、動画やスライドで説明しました。その後、ほ場で電気柵のメーカーによる設置の実演が行われ、近くのイノシシの巣を確認しました。関係機関を含めて 36 名の参加となり、夫婦で参加の方もおられて、対策に対する意欲を感じました。

（侵入防止柵の設置実演）